

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 9 月 13 日 (2007.9.13)

【公開番号】特開 2006-41444 (P2006-41444A)
 【公開日】平成 18 年 2 月 9 日 (2006.2.9)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-006
 【出願番号】特願 2004-223412 (P2004-223412)
 【国際特許分類】

H 0 1 L 21/306 (2006.01)

H 0 1 L 21/304 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 21/306 R

H 0 1 L 21/304 6 4 3 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 7 月 24 日 (2007.7.24)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 5】

上記した構成を有する支持部 7 では、駆動部 7 5 が制御部 8 0 からの駆動信号によって図示省略する駆動連結部を介して可動ロッド 7 3 を上昇駆動させることにより、可動ロッド 7 3 の先端部がフィルム 7 1 の円筒状凹部の上底面に当接してそのままフィルム 7 1 の上面中央部を押上げる。これにより、スピンベース 5 の上面側に埋設されているフィルム 7 1 の上面がスピンベース 5 の延出部 5 a の上面から突出する。このため、複数の支持部 7 のフィルム 7 1 の全て（若しくは少なくとも 3 個以上）を突出させることで、フィルム 7 1 を基板 W の下面と当接させつつ基板 W をスピンベース 5 の延出部 5 a の上面から離間（例えば、1 mm 程度）させて水平支持することが可能となる（図 5）。一方で、駆動部 7 5 が可動ロッド 7 3 を下降駆動させると、可動ロッド 7 3 の先端部はフィルム 7 1 の円筒状凹部の上底面から離間されて、フィルム 7 1 の上面をスピンベース 5 の延出部 5 a の上面と同一平面内に収容する。このため、突出させた複数の支持部 7 のフィルム 7 1 のうち少なくとも 3 個を残して、その一部を下降させることで、下降させたフィルム 7 1 を基板 W の下面から離間させることが可能となる。なお、このようなフィルム 7 1 は、可撓性を有するとともに処理液に対する耐腐食性を有する樹脂により成形される。好ましくは、P C T F E（ポリクロトリフルオロエチレン）等のフッ素樹脂が用いられる。このように、この実施形態ではフィルム 7 1 が本発明の「支持部材」に相当している。